2026年11月13日

各位

会社名　　第一屋製パン株式会社
代表者名　代表取締役社長　細貝　正統
（コード：2215　東証スタンダード市場）
問い合わせ先　経理部部長　伊藤　健
（TEL：042-344-7601）

通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向等を踏まえ、2026年２月13日に公表しました2026年12月期（2026年１月１日～2026年12月31日）の通期連結業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 2026年12月期通期連結業績予想数値の修正（2026年１月１日～2026年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想（A）	32,900	370	310	180	26.00
今回修正予想（B）	30,400	570	560	360	52.00
増減額（B－A）	△2,500	200	250	180	
増減率（%）	△7.6	54.1	80.7	100.0	
（ご参考）前期実績（2025年12月期）	28,957	466	446	320	46.34

2. 修正の理由

当第３四半期連結累計期間におきましては、物価高騰に伴う消費者の生活防衛意識や選別志向の高まりを背景に、一部カテゴリーにおいて買い控えや販売数量の伸び悩みが見られました。一方で、食品事業における主力ブランドの戦略的販促企画の展開、2026年７月に実施した価格改定の市場浸透、人気キャラクターやブランドとのコラボレーション商品や業務用食材パン等の伸長に加え、DPS（第一パン生産方式）活動の推進による生産効率の向上や原単位での徹底したコスト削減に努めてまいりました。

2026年12月期通期連結業績予想につきましては、売上高は、昨今の物価高騰に伴う消費者の生活防衛意識や選別志向の高まりなどにより前回予想を下回る見込みとなりました。

利益面につきましては、食品事業における主力ブランドの販促強化や 2026 年７月に実施した価格改定の市場浸透、コラボレーション商品やキャラクター商品の好調推移、DPS 活動による生産効率向上や徹底したコスト削減に加え、アイテム毎の採算管理、値引管理を徹底し、粗利を重視した販売戦略を進め、収益基盤の強化に努めたことにより、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益が前回予想を上回る見込みとなりました。

以　上